

新長野トンネル開通！事故に備え連携強化！

国道163号新長野トンネル開通に伴う合同訓練を実施

津消防タイムズ

第31号



新長野トンネル開通前に訓練を行う津市、伊賀市の両消防本部

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画広報担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199

○新長野トンネル開通に伴い 関係機関と合同訓練を実施

津市と伊賀市の境界を走る、国道163号の新長野トンネルの開通に伴い、津市消防本部、伊賀市消防本部、県警察本部、県建設事務所は、七月二日、交通事故を想定して、合同で訓練を行いました。

訓練は、伊賀市側出口付近で、軽乗用車とトラックが衝突し、後続の小型バスを巻き込む多重事故が発生、複数の負傷者が出たとの想定で各機関から計六十五名が参加して実践さながらの緊張感のなか行われました。



→救助活動を行う
伊賀市消防本部救
助隊



←救助・救出活動
を行う津市消防本
部救助隊と救急隊

津市消防本部・野田重門消防長は、「大きな災害は単一機関では対応が困難であり、全体としてスムーズに訓練が行われましたが、各機関で反省点は改善して有事に備えていって欲しい」と述べました。

また、訓練後は、津市消防本部中消防署中署職員による、トンネル内での事故発生時の実証研修が行われ、実際に煙を発生させ、濃煙がどのように流れるか、事故発生時のトンネル内の耐熱温度や対処法、無線通信テスト等、両市消防職員は、実災害に備え熱心に受講していました。



↑濃煙の実証研修を行う両市消防職員

○三重県消防操法大会

津市からは二消防団出場

三重県と県消防協会（谷口繁喜会長）主催で、七月十九日に県消防学校（鈴鹿市石薬師町）において「平成二十年消防操法大会」を開催しました。

県内十二消防団が出場し、競技種目は、小型ポンプ操法という種目で、炎天下の中、県内の代表消防団員が安全性・確実性・迅速性を競うもので、津市からは、津市津消防団と津市久居消防団の二団が出場し、日ごろの訓練の成果を披露しました。

また、アトラクションでデイズー分団（津市津消防団）による消防団多機能型消防車の取扱訓練も行われました。



↓操法を披露する津市久居消防団

↑操法を披露する津市津消防団

→取扱訓練を行うデイズー分団

○本格的な夏を迎え

熱中症の研修を実施

津市消防本部は、七月十七（十八日）、本格的な熱中症の時期を迎えるにあたり、大塚製薬株式会社津出張所の今川智之氏による、熱中症対策の研修会を開催しました。

研修は、同市消防職員六十五名が参加し、熱中症の基本的なメカニズムや発症の防止法、万一発症した場合の処置等、詳細なデータに基づく分析や対応方法等について行われ、参加した職員は熱心に受講していました。

受講した職員からは「消火活動等における熱中症の予防や、救急現場で熱中症患者の適切な処置に役立てたい」と述べていました。



↑熱心に受講する職員



○北消防署北署で

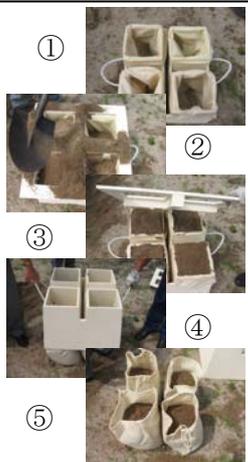
土のう製作機を製作

北消防署北署では、台風や集中豪雨等の出水に備え、土のう製作機を製作しました。

この土のう製作機は、直接土のう袋を触らずに、土のうが製作出来るもので、軽易な作業で、一度に最大四袋を迅速に製作出来るものです。

製作した山田美男消防司令は、「一刻を争う緊急災害時に活用したいです」と述べていました。

製作機に関するお問い合わせは北消防署北署 ☎（二三三三〇九二）まで。



○成美小学校の児童

久居消防団詰所を見学

津市立成美小学校の四年生の児童が七月二十日、同市久居消防団第四分団（松下浩己分団長）の詰所を社会見学として訪れました。

この行事は、防災教育の一環として、今年で十三回目を迎え、松下分団長をはじめ各団員が、小学生に消防団の活動の説明や起震車による地震体験、初期消火訓練、放水訓練等の体験を通じて、防火意識の普及に努めていました。

中谷貴重子学年主任は、「災害時にとっても有効な経験が出来たことを子供たち全員が喜んでいました。団員方々の暖かい人柄にふれ、地域を愛し、地域に根付いた消防団活動のすばらしさを実感させていただいた一日でした」と述べていました。



↑地震の説明に聴き入る成美小学校の児童

がんばれ Rescue! 白山消防署 白山署(ほふく救出隊)**○白山消防署 白山署****ほふく救出隊**

今月は、東海地区消防救助技術指導会に出場する白山署ほふく救出隊を紹介します。

このほふく救出という種目は、三人一組(要救助者を含む)で行い、スタート位置から十メートル先にある用具置台にて救助者は空気呼吸器を着装し、補助者は確保ロープ及び小綱を救助者の両足首に結着した後、救助者が八メートルの煙道を進入して要救助者を屋外に救出し、二人が協力して要救助者をゴールまで安全確実に搬送する所要時間を評価するものです。

隊員の今年のチームテーマは、「One For All、All For One」で全国大会出場を目指して訓練を行っています。昨年度も東海地区の代表として全国大会出場を果たしているだけに、今年も期待されます。

この日々訓練に励む隊員について、一問一答形式でレポートしてみました。

質問項目については、次のとおりです。

- ① 救助隊になったきっかけ
- ② 救助訓練を通じてあなたが目標とするテーマは?
- ③ 実務も含め、救助隊をして良かったことは?
- ④ 日々の訓練等で辛いことは?
- ⑤ 余暇はどんなことをしていますか?
- ⑥ 最後に好きなことをどうぞ



若林 久史 (三〇歳)
補助員 チームリーダー

- ① 憧れもありましたが、仲間を声をかけてもらったのが一番のきっかけです
- ② 技術の向上、そして現場に活かせること
- ③ チームワークの難しさを知り、仲間を信じていくことができた

④ ノミの心臓なので、誰かが見ていると失敗します。それが辛いです

⑤ 風呂に入って疲れを取る

⑥ 周りの皆様に感謝しつつ、全国大会二年連続出場を目指します



中嶋 勇輔 (二六歳)
救助者

① 救助大会に出場してみたかったから

② 訓練で培った精神力・体力・技術を今後の消防人生に活かしたい

③ 精神力・体力・技術が向上したこと

④ 煙道内で要救助者を引くこと

⑤ ジョギング、温泉

⑥ 訓練に集中できる環境を作ってくれた同僚や先輩に感謝します



上田 隆広 (二三歳)
要救助者

① 若い時にしか出来ないと思ったから

② 技術の習得、向上

③ 新しい知識及び技術が身についたこと

④ 結索がうまくいかないこと

⑤ ジョギング

⑥ 要救助者だけで終わらず、来年は救助者や補助員になれるように頑張ります

東海地区消防救助技術指導会は、八月五日に三重県消防学校(鈴鹿市石薬師町)にて行われます。

大会は自由に見学出来ますので、地域の安心・安全を守る消防救助隊員の勇姿をご覧いただければ幸いです。

消防署だより

名所・歴史紹介

北消防署雲濃分署

○石山観音磨崖仏

石山観音磨崖仏

この場所は、県道津関線沿いの楠原地区から南西の山中に入ったところにあり、標高は約一六〇mで山全体が一つの石からなっています。そのところどころに四十体余りの石仏があり、いくつかは石に直接彫りつけられています。このように直接石に彫り付けられた仏像は磨崖仏（まがいぶつ）と言われ、その多くが観音像であるので石山観音と呼ばれるようになりました。中でも「阿弥陀如来立像」「地藏菩薩立像」「聖観音立像」の三点が三重県文化財に指定されています。

この石山は三重県下では他に例の少ない磨崖石仏群をなしていますが、その沿革については不明ですが美術史の上からは鎌倉時代の終わりごろから作り始められたものといわれています。



石山観音は徒歩約四十分のハイキングコースで、老若男女を問わず誰でもが容易に歩けます。山頂に登ってみると長く滑らかな岩があり、ちょうど馬が頭をたれて草を食べているかのようにみえることから、「馬の背」と呼ばれています。ここからの眺望は格別です。一度散策してみたいかかでしょうか。

石山観音では毎年四月の第二日曜日と九月十五日にお祭りがあり、近郷近在よりの参拝者で賑わいます。（小菅宜治）

～ 6月中の災害 ～

火災 10件 (66件)

救急 851件 (5,610件)

救助 10件 (73件)

() 内は H20 年累計



↓7月9日 防火管理者講習会が三重県総合文化センターで開催されました。

↑7月28日 東海地区消防救助技術指導会に出場する隊員の激励会が開催されました。



↑7月19日 県操法大会に、消防音楽隊も出演しました。

カメラアングル

☆ 8月の主な行事 ☆

- 8月5日 (火) 消防技術東海地区指導会 (三重県消防学校)
- 8月24日 (日) 一般公募普通救命講習 (北消防署北署)
- 8月31日 (日) 津市総合防災訓練 (久居駐屯地)

○編集後記

私はバイクが趣味で、七月二十日～二十一日に、鈴鹿サーキットでバイククラブのイベントを開催していました。全国各地から一〇〇人を超える友人が集まり楽しんでいましたが、梅雨明け直後の猛暑で、熱中症になりました。北海道や山間部の比較的涼しい地域からお越しの友人には、この暑さは厳しかったようです。幸いにも重症には至りませんでした。夏のリジャーにお出かけの際は、スポーツドリンク等による早めの水分補給や日陰に入るなど、熱中症には十分注意したいですね。（大東雄一）